

輸送 競争的な圧力を強めるカーシェアリング

原題: Ride-sharing piles on the competitive pressure
誌名: RGI: Railway Gazette International Vol.171 No.3 (2015-3) p34-37

フランスではカーシェアリングが急速に広まりつつあり、すでに鉄道長距離旅行の市場を侵食しています。例えばパリ〜リール間 (219km) では、TGVのコストが45〜67ユーロ、所要時間が両都心間で1時間20分であるのに対し、カーシェアリングではそれぞれ12ユーロ、2時間11分です。カーシェアリングの弱みは道路交通の渋滞や環境負荷ですが、旅行者の低コスト志向は高まる傾向にあり、このしくみは他国にも拡大すると予想されます。

出典: Railway Gazette International



最高速度 130km/h の高速道路により高速列車に対して競争力を有するカーシェアリング

環境 騒音評価のための音響心理学的調査

原題: Psychoakustische Untersuchung von Lärmschutzmaßnahmen
誌名: ETR: Eisenbahntechnische Rundschau Vol.64 No.3 (2015-3) p64-68

A特性音圧レベルは騒音の客観的な評価値として採用されていますが、一般的には主観的な知覚を不完全に反映したものに過ぎません。そこで鉄道由来の様々な騒音放射に対する人間の騒音知覚を正確に測定し、将来の騒音対策をより良く評価するための調査を実施しました。具体的には、防音壁やレール腹部への吸音材によるスペクトル変化とうるささの関係を調査しました。



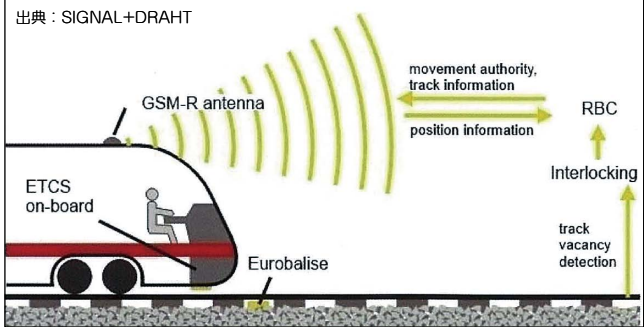
出典: Eisenbahntechnische Rundschau

人工頭部測定システムによる聴覚的音響記録

信号通信 RBCインターフェースにおける伝送と計算遅延に対する体系的処理

原題: Systematic handling of transmission and computation delays at RBC interfaces
誌名: SD: SIGNAL+DRAHT Vol.107 No.3 (2015-3) p24-28

ETCS Level 2に対するUNISIG (ETCS関連の業界団体) の仕様には、ETCS車上装置とRBC (無線基地局) のインターフェースや機能および定量的安全目標が記述されています。しかし、RBCへの要求事項は技術的相互運用性などについて言及しているに過ぎず、具体的機能要件は顧客の仕様とRBCのハザード分析から導き出されねばなりません。



ETCS Level 2列車防護システム

安全 車両とホームの隙間対策に着手

原題: Mind the gap
誌名: RGI: Railway Gazette International Vol.171 No.3 (2015-3) p66

イギリスでは車両とホームの段差、隙間が乗客の死傷事故の最も多い要因です。そこで事故内容を分析して解決策を検討するプロジェクトが始まり、乗車時より降車時に多く発生することや夏季に多く発生することなどが判明しました。決定的な解決策のないことが関係者で認識されましたが、ホームを部分的にかさ上げして車両の床面高さと合わせる試みなど、具体的な取り組みも始まっています。



鉄道事業者が使用するために準備されたポスター (右)



WRT (海外鉄道技術情報) は海外主要鉄道誌の記事抄訳を含め、海外の最新の鉄道技術情報をタイムリーに紹介する季刊誌です。ここに紹介した記事はその一部です。
⇒ 新刊案内、バックナンバーは総研HP (www.rtri.or.jp) をご覧ください。
⇒ 問合せ (研友社) TEL: 042-572-7157 HP: www.kenf.jp